

日本語讀本 卷一

東亞高等豫備學校

口語第一部

第一課

教科書

東京の
附近

侯力侯カ
西サ东ト
人シ

大 神 東 安
阪 戸 安

ソ
レ
コ
レ
ド
レ

デス

下レモ

日本語讀本デス。

コレハ會話ノ本デス。

ミナ

コノ學校ノ教科書デス。

トレ
デス
那石
永

第二課

讀
本

モウ

私

モウ | ステ

假名

ナラヒマシタ。マタ

短イ會

コレカラ

話ヲスコシ

ナラヒマシタ。コレカラ

コノ讀本ヲ

ナラヒマス。又

才出、テネオ。
マシタ。

3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527

第三課

入學

近⁴内⁵以⁶又⁷来⁸云。

ます
ました
ませう

今日 昨日 明日

カラ
サア

着ク、下リル、乗
ル、動キ出ス

オートバイ
アンナニ

林さんは 私の友人です。林さんは 昨日 入學し

ました。李さんも 王さんも 私の友人です。李さん

は 昨日 入學します。王さんは明日入學しませう。

第四課 日曜日

雨が ハレマシタ。好イ天氣デス。今日ハ 日曜日

デスカラ 散歩ニ行キマセウ。サア 一緒ニ 出カケ

マセウ。

第五課 汽車

汽車ガ 停車場へ 着キマシタ。大勢ノ人ガ 下リ

マス。大勢ノ人ガ 乗リマス。マタ 汽車ガ 動キ出

シマシタ。モウ アンナニ 小サク ナリマシタ。

イソイソに
急いで来りませう

イソイソに
急いで来りませう

馬車

渡船

ニギヤカナ町
繁華

大切ナ

大事ナ

緊要ナ

交通機關

行是

およう

遊ぶ・泳ぐ

澤山

多數・多量

黒い

赤い

白い

第六課

ニギヤカナ町

此處ハ 大層 ニギヤカナ町デス。電車モ 自動車

モ アリマス。港ニハ 汽船モ アリマス。アア 飛

行機ガ飛ンデ來マシタ。汽車・汽船・電車・自動車・飛行機ナ

ドハ 皆 大切ナ 交通機關デス。

第七課

鯉

此處ハ 公園デス。池の中に 鯉が およいでゐま

す。數へて ごらんさい。一匹、二匹、三匹、四匹、

五匹、六匹、七匹。七匹ゐます。いや あそこにも、

まだ 澤山ゐます。大きいのも ゐます。小さいのも

ゐます。黒いのも ゐます。赤いのも ゐます。白と

ぶちー斑

スイヌカ

スイヌカ

スイヌカ

始め

咲キ出ス

梅・櫻・菜ノ花

ウツクシ
鶯・蝶蝶

赤との ぶちも ^{（赤）}あます。麩を投げてやると 喜んで

食べます。あれ ^{（赤）}ごらん ^{（赤）}なさい。仲よく ^{（赤）}一列になつて

およいで來ます。

（赤）

（赤）

第八課 コレカラ

ダンダン 暖カニ ナツテ來マシタ。梅ノ花ガ 咲

キ出シマシタ。今朝 鶯ガ 梅ノ木デ ホウホケキョ

ウト 鳴キマシタ。櫻ガ 咲クノハ、コレカラデス。

菜ノ花ガ 咲クノモ、コレカラデス。蝶蝶ガ 舞フノ

モ、コレカラデス。

第九課

日の入り ^{（赤）}

（赤）

御覽なさい。

夕日 ^{（赤）}の色が 大層綺麗 ^{（赤）}です。もう入り

（赤）

（赤）

だんだん
とうとう

夕焼
夕焼
夕焼

マシタ
マシタ
マシタ

鳴
コエ
コエ

鈴虫

松虫

轡虫

馬追虫

デス

デアリマス

デゴザイマス

音、音
コスル 擦ル

シサウニ

始めました。見て居る中に、だんだん 隠れます。あ

あ、とうとう 見えなく なりました。空が 眞赤に

なりました。美しい夕焼です。 眞黒、眞白

第十課 虫ノ聲

病人の顔は青白、白く

草ノ中デ 虫ガ イイ聲ヲ 出シテ、 鳴イテ居マス。

アレハ 何トイフ 虫デセウ。 リイン リイン ト鳴

クノハ 鈴虫デ、 チンヂロリン チンヂロリン ト鳴

クノハ 松虫デス。 マタ ガチャガチャト ヤカマシ

ク鳴クノハ 轡虫デ、 スイツチヨ、 スイツチヨ、 ト 淋

シサウニ 鳴クノハ、 馬追虫デス。

スベテノ虫ノ 鳴ク音ハ 喉カラ出ルノデナク、 羽

ヲ コスツテ、 音ヲ 出スノデアリマス。

セ 2 庭前の草花

枯^カレ^シ萎^ム

第十一課 水仙

○虫ノ鳴ク音ハ、何處カラ出マスガ。

霜^{シモ}ノ下リタ 寒^{ハナ}イ花^{ハナ}畑^{タテ}ノ中ハ、木モ草モ 枯^カレ^シ萎^ムン

デキマスガ、水仙バカリハ 霜モ氷モ風モ 怖^{オソ}レナイ

デ、青イ葉ヲ 伸^ハシテ、眞白ナ綺麗ナ花ヲ 開^{ヒラ}イテキ

マス。ナントマア 勇マシイ 立派ナ花デハアリマセ

ンカ。水仙ガ 世ノ中ノ人達ニ ヨロコバレルノハ、

寒イ時^{デスラ}デモ、平氣デ 花ヲ 開クカラデセウ。



○水仙ハイツ頃開キマスカ。

第十二課 爪の掃除

指の爪を 長く 伸して置く時は、黒い垢が たま

伸^{ノビ}して
置^{オキ}く時^{トキ}は
置^{オキ}け^バと

微菌

知らぬうちに
口の中・鼻の穴

病氣に罹る

掃除

忘れては

〔なりません
いけません〕

数へ方

用 墨 筆 竹

メートル
リットル
 litre

ります。この垢の中には、種々の悪い微菌が交つて
ゐますから、それが 知らぬうちに、口の中や 鼻の
穴へ 入りますと、怖い病氣に 罹ります。それで
手を 洗ふことと、時々 爪の掃除を することを
忘れてはなりません。

第十三課 数へ方

物には、それぞれ 種々の数へ方が あります。例
へば、筆や 鉛筆や 竹竿などは 一本二本と 呼び、
紙は 一枚二枚、本は 一冊二冊、墨は 一挺二挺、
車は 一臺二臺、船は 一さう二さう、茶碗に 盛る
ものは 一ぱい二はいと言ひます。近頃 物指で 計
るものは メートルを 用ひ、
秤で 量るものは リ

グラム Gramme

丈・尺・寸・分

石・斗・升・合

貫・匁・斤

舊來

生ず

餘程

コノイタ

ビツクリスル

カハイガル

何遍モ

幾たびモ

チヨットハ

シバラクハ

ツトルを 用ひ、秤はかりにかけるものは、グラムを 用ひ
ることになりましたが、舊來の習慣で 物指に 丈・
尺・寸・分、枡に 石・斗・升・合、秤に 貫・匁・斤などを 用ひ
るものも 少なくありません。

第十四課 親牛ト子牛

私ノ家ニハ、親牛ト 子牛ガ 生マス。子牛ハ コ
ノ間 生レタノデス。モウ 餘程 大キク ナリマシ
タ。ケレドモ マダ 角ツノハ 生ハエマセン。何ナニデモ
スグ ビツクリシテ、駢カケ出シマス。親牛ハ 子牛ヲ
大層 カハイガリマス。日ニ 何遍モ 嘗ナメテ ヤリマ
ス。親牛ヲ 外ヘ 出スト、子牛モ 一緒ニ ツイテ
イキマス。チヨットハ 離ハナレレマスガ、スグ 親牛ノ處

ヨソ
餘所・他所

ヒモ
被る

好い工夫
うまい考
あるまいか
年取る(年老) としと

どうでせう
なるほど
いかに

すると
さうすると

へ 來マス。
セン。

綱ヲ ツナ

附ケナクテモ、
トモ

ヨソへハ (餘所)
イキマ
雖…也…

第十五課

鼠の智慧

「此の頃 仲間のものが、猫に捕られて困るが、何か
好い工夫は 有るまいか。」 (為難)

と、年取つた鼠が 仲間のものに 言ひました。その
時、一匹の子鼠が 前へ出て 言ひました。 (拾上)

「好い工夫があります。大きな鈴を 猫の頸に 付
けて置いて、その音が聞えたら、逃げることにして
は どうでせう。」 (三つ回)

「なるほど、好い考だ。」 (カンク)

と言つて、皆感心しました。すると 年取つた鼠が

好むよしとく
(他さるる)

黙つてしまふ

タマル

全め
る

八百屋
水菓子屋

箆に盛る

酸っぱい

「それも好いが、誰が その鈴を 付けに行くか。」
と言ひましたので、皆黙つてしまひました。

○鈴を猫の頸に付けに行く鼠がありませうか。

第十六課 いろいろの果物

夏の末から 秋のはじめ頃に なりますと、いろいろ

ろの 旨さうな果物が 八百屋や 水菓子屋の 店前

に 美しく 並べられます。赤いのは 林檎でせう。

紫色のは 葡萄でせう。そして 赤黒く 光澤のよい

栗の實も 箆に 盛られて 出てゐます。今少したて

ば、柿も 出ませう。上つて 青くて 酸っぱい蜜柑

も亦 皆さんの前に その顔を見せませう。

元來 果物は お菓子などと異ひ、それぞれ おい

爲になる

本當三
完全時
実在、
很

不熟

外に出シタ
シカ
外に出シタ

しい味が ありますから、誰も 好みます。殊に 食物の消化を よくするので、梨や 林檎や 葡萄などを、食事の後で、少し食べるのは、體の爲に なります。

す。けれども 本當に 熟してゐないものは 味が悪いばかりでなく、非常に 消化が 悪くあります。中には 毒になるものさへ ありますから、不熟の果物は 食べないやうに 注意しなければなりません。

○果物の名を知つてゐるだけ舉げてごらん下さい。

○食後に果物を食べると、なぜ體の爲になりますか。

○不熟の果物を食べるのは、なぜいけませんか。

第十七課 雨

カウニ此ノ様ニ
サウニ其ノ様ニ
アアニアノ様ニ
ドウニドノ様ニ

ハゲマシタ
ヤウニ
ヨギヤ
ヨギヤ
ヨギヤ

ナカ
ハレレ

ハル
水ノ嵩

嵩ニ数量・容積

雨水

避ケルニヨケル

此ノ頃ハ 雨が降り續イテ、表デ遊ブ日ガアリマセ

ン。カウ毎日降ル雨ハ ドウナツテシマフノデセウ。

唐傘ニ降ル雨が 四方ヘ流レ落チルヤウニ、水ハ

低イ方ヘ低イ方ヘト 流レテ行キマス。庭ヘ降ル雨モ、

庭ノ高イ所カラ 低イ方ヘ流レテ行キマス。ハジメハ

絲筋ホドノ流デスガ、ソレガダンク集ツテ、溝ニ落

チル頃ニハ、流モ早クナリ、水ノ嵩モ多クナリマス。

雨水ノ流レル道ハ 地圖ニカイタ川ヲ見ルヤウデス。

本流ガアリマス。支流ガアリマス。低クテ廣イ所ニ溜

ルト、池ノヤウニナリ、高イ所ニ行キアタルト、其所

ヲ避ケテ流レマス。カウシテ流レル水ハ、溝カラ小川

ヘ 小川カラ大河ヘ 流レクテ海ヘ行キマス。

雨水ハ 唯カウシテ流レルバカリデハアリマセン。

浸シ込ム
浸潤・滲下

程イ好イシク。
又イ程好イシク。

地ノ中ニ浸ミ込ンデ、井戸水イヅミヤ泉ノモトニナルノモアリ、目ニ見エナイ水蒸氣フヨウニナツテ、空ヘカヘルノモアリマス。

第十八課

虎ト狐

虎ガ 狐ニ 逢ツテ

オナカリ腹

「オナカガ スイタカラ、オ前ヲ 食ベルゾ。」

ト言ヒマシタ。

平氣ヘイキナ顔カホ

狐ハ 平氣ナ顔デ

「ソシナコトガ、出來ルモノデスカ。私ハ 獸ノ頭デ、ミンナガ 私ヲ 怖ガツテキマス。嘘ト 思フナラ、一緒ニ オイデナサイ。」

怖コホガル・嘘ウソ

ト言ヒマシタ。

ナルボド
ホシタウニ
實ニ
イカニモ

メバエニ芽生
ウツメルニ埋
カタイ
堅イ・硬イ

暗イ
明ルイ
日ニテラサレタリ
風ニアタツタリ

虎ガ 狐ニツイテ行クト、途中デ 逢ツタ獸ハ、皆
逃ゲテ 行キマス。虎ハ 自分ヲ 怖ガルノダトハ
知ラナイノデ、「ナルホド 狐ハ 偉イナ。」ト思ツテ、
狐ヲ 食ベルノヲ 止メマシタ。

○コノ狐ノヤウナ人間ヲ諷シタ諺ヲ知ツテ居マスカ。

虎の威を借り狐。(物は人なり)

第十九課

メバエ

私ハ

モ、

桃

ノ木ノメバエデス。

私ガ

土ノ中ヘ

ウ

ヅメラレタノハ、去年ノ夏ゴロデシタ。今年ノ春ニナ

ツテ、ソロ〜 カタイキモノヲヌイデ、土ノ外ヘ

カタイキモノ

着物

脱

核

見

アタマヲ 出シマシタ。

核

見

暗イ

所カラ

明ルイ

所ヘ

出テ、

日ニテラサレタリ、

風ニアタツタリ

スルノハ、

サツパリトシテ

ヨイ心モ

風ニアタツタリ

スルノハ、

サツパリトシテ

ヨイ心モ

風ニアタツタリ

スルノハ、

サツパリトシテ

ヨイ心モ

風ニアタツタリ

スルノハ、

サツパリトシテ

ヨイ心モ

風ニアタツタリ

スルノハ、

サツパリトシテ

ヨイ心モ

風ニアタツタリ

クキニ莖

ノビルニ伸

ソレカラソレヘト
順次ハナハナ
ハナハナ

花ガサイタリ

實ガナツタリ

櫛・栗

チデス。今ハ短イクキニハナエ細イ葉ガ三四枚ツイテ

キルバカリデスガ、コノクキガノビルト、葉モタクサ

ンニナリ、枝モダンエダク出テ來マス。今ハ根モ小サ

イガ、コレモオヒオヒ追々大キクナツテ、ソレカラソレ

ヘト細イ根ヲ根ヒロゲマス。サウシテシマヒニハ

大キナモ、ノ木ニナツテ、美シイ花ガササイタリ、ウマ

イ實ガナツタリスルノデス。

皆サンガ花ヲ見タイ、實ヲ食ベタイトオ思ヒナ

サルナヲ、私ヲ後援、保護、保守、形ダイジニシテ下サイ。

第二十課 材木

材木ニハ、松 杉 檜 櫟 栗ナドガアリマス。

最モ多ク用ヒルモノハ松ト杉デ、上品ナノハ檜、堅

イノハ 栗ト樺デス。

松・杉・檜・樺ハ、板 又ハ 柱ニシテ、家ヲ建テ 橋ヲ

架ケ、船ヲ作ルナドニ 用ヒマス。 杉ハ 電信柱ニ

用ヒ、又 箱ヤ桶ヤ樽ナドヲ 作ルノニ 用ヒルコト

ガ 多イノデス。

土臺・枕木

栗ハ、堅クテ 長ク腐リマセンカラ、家ノ土臺ヤ又

ハ 鐵道ノ枕木ナドニ シマス。

桐

桐ハ、柔クテ 弱イ木デスカラ、家ヲ建テル材木ト

シテハ、用ヒラレマセン。 ケレドモ、輕クテ 美シイ

机・本箱・簞笥・
下駄

カラ、机ヤ 本箱ヤ 簞笥ヤ 下駄ナドヲ 作ルノニ

用ヒマス。

柚・木挽

材木ヲ 山カラ 伐リ出スモノハ 柚デス。 材木ヲ

挽イテ、板ヤ 柱ニスルモノハ 木挽デス。